

# 使ってなっとく！「はばたく群馬の指導プラン」(理科)編

今回は、「はばたく群馬の指導プラン」第I章を活用して、理科の授業を具体化した例を紹介します。

ねらいの吟味

小学校3年生 理科 単元名：明かりをつけよう  
本時のねらい：明かりがつくときとつかないときのつなぎ方を比較し、明かりがつくつなぎ方を考察することができる。

最終的には、「乾電池の+極、豆電球、乾電池の-極が、一つの輪のように導線でつながっているとき、豆電球に明かりがつく」ということを考えさせる授業だな。「指導プラン」でポイントを確認してみよう。



「指導プラン」の活用



なるほど。小学校3年生では、共通点や差異点に目をつけて、比較するような授業づくりをするんだな。本時を構想してみよう。

＜「はばたく群馬の指導プラン」28ページ 理科 小学校3年生＞

自然事象を比較し共通点・差異点を明らかにする

比較

事物・現象A

比較

事物・現象B

(例) 単元「昆虫と植物」

チョウの体のつくり



比較



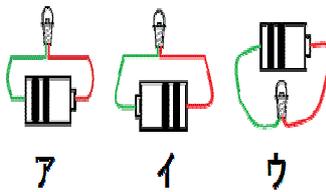
バッタの体のつくり

共通点① 成虫の体が頭・胸・腹からできている。  
共通点② 成虫には、あしが6本ある。  
差異点 体の大きさ、表面の様子、色などが異なる。

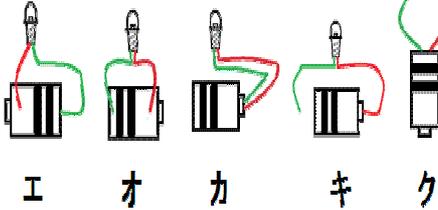
比較すべき対象等の検討

子どもが前時に試したいいろいろなつなぎ方を下のA群、B群のように分け、それらを比較させよう。

明かりがつくつなぎ方(A群)



明かりがつかないつなぎ方(B群)



ねらいは「明かりがつくつなぎ方を考察することだから、B群と比較させながら、A群の共通点を考えさせることが授業の中心になるな。



個人で考察する場面の構想



最終的なねらいの達成に向け、個人で考察する場面において、A群の共通点として、最低限、子どもに気付かせたいことと、それに気付かせるためのヒントとなる言葉がけを考えてみよう。

どれも導線が+極と-極につながっているよ。



ヒント：導線のつなぎ方はどうなっているかな。

導線が一つの輪のようになってるね。



ヒント：A群と、B群のキを比べてみよう。

乾電池→導線→豆電球→導線→乾電池のようにつながっているわ。



ヒント：導線を指でたどってみよう。

よし。これらの考えを中心に、全体で考察させることで、「乾電池の+極、豆電球、乾電池の-極が、一つの輪のように導線でつながっているとき、豆電球に明かりがつく」という見方ができ、ねらいの達成につながるぞ。次は、全体での考察のさせ方をじっくり構想しよう。



「はばたく群馬の指導プラン」の第I章は、各教科等の身に付けさせたい資質や能力を、児童生徒の具体的な姿や取り組み例でまとめてあります。日常の授業づくりで活用してみたいはかがででしょうか。